



図書館 だより

図書館 ☎69♦3706

「おしえて!図書館」

Q 干支について教えてくれる本はありますか。

A 来年の干支は午ですね。紹介するこの本は今から40年ほど前の1972年に初版が出版されました。午は2巻に収録されています。お正月にウンチクが語れます。



十二支考1
南方熊楠／著
平凡社

知の巨人と言われた南方熊楠が十二支の動物について論じた本。古今東西の説話を踏まえて語られる知識の広さに驚かされる。

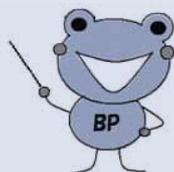
子ども向けにはこんな本もあります。



もっと知りたい!
十二支のひみつ
大高成元 他／著
小学館

ネズミ年、ウシ年、トラ年…。十二支ってなんだろう?十二支の動物にまつわるむかし話、故事・ことわざから、体のひみつ、ないしょのお話、その他楽しいマンガまでが満載。

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。



■境界線は?
人には誰にでも生きていくと「はつきりせずに良くわからないこと」が一つや二つはあるもので、例えば「彼は私に興味があるのかないのか」「彼の苗字はハギワラなのかオギワラなのか」「遠足時のバナナはおやつに入るのか」など大きな問題から小さな問題まである。世の中はギモンだらけなのであって、しかしながら「そんなことどうだっていいんだよ、こっちは忙しいんだからよ」と言って皆日々

■水族館のはじまり
もともと、水族館は動物園の一をせわしなく過ごしているのです。水族館ではつきりしないことの代表的なものに「動物園とのさかいめ」がありますよね。ありませんよ、と言っても、どうだっていいんだよ、と言われてしまいうですが、例えばペンギンは動物園にも水族館にも展示されています。シロクマ、アシカも同じです。しかし同じ水の中にいるのにカバは水族館では展示されていません。この基準はあるのでしょうか。

角から始まったのです。大昔の初めは循環していかない止水の水槽でいいかげんな水替えをして簡単な魚を飼育展示していたようです。それが動物園内の「お魚コーナー」になり、その後水族館として独立しました。動物園でしか飼ってはいけない生き物、これは水族館の生き物だから動物園では飼ってはいけません、という決まりはありませぬ。水中の生き物という特徴から水処理能力やアクリルガラスでの水槽展示技術の高い水族館がペンギンやアシカを展示しているだけであって、その技術を動物園で行えば動物園でも飼育できます。カバは水を汚しすぎてひどく水がにごるので、基本水槽のガラス越しから観覧する水族館

■動物園と水族館の違い
ではその展示は課題です。動物園と水族館の違いは、ゾウさんやキリンさんがいるのが動物園で、お魚がいるのが水族館ということ、それだけの事なのですが、特徴は動物園はゾウ、キリンといった特定の生き物が思い浮かぶのに対して水族館は「お魚がいるところ」という場所であることです。つまり特定の生き物を見る目的で水族館に来るお客さんは案外少ないのです。「ほら、ほら、ゾウさんだよ!」と子どもに言うお母さんはいても「ほら、ほら、ヨスジリュウキュウスズメダイだよ!」と興奮して子どもに言うお母さんはいないので



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68♦2059